



利用促進の秘訣は、とにかく体験させる、 使わせること。 「実感する→使ってみる→当たり前になる」 の循環を生み出すことです。

社会福祉法人 あかね 様

IT 事業分野で 40 名以上という規模の障害者雇用を行う社会福祉法人あかね。

弱視や身体障害がある場合であっても、障害のあるないに関わらず普通の生活をしていくこと（ノーマライゼーション）を実現する為、「障害者施設」ではなく「企業」として活動を行い、「企業に勤めている」という意識を与えることにより本人の自立支援へと取り組んでいる。

また、障害者の自立を支援する組織として、積極的に自ら障害者雇用に取り組んでいるところは大変珍しく、様々な組織・団体からの視察や問い合わせが後を絶たないという。

拠点が 2 か所あり、以前は情報共有を行うのにも手間がかかっていたという。

導入担当者でもある理事長・安西氏が、これらを解決するツールを探していたところ、新聞で GRIDY を見かけ「同じ企業であればシームレスかつ手間をかけずに情報共有できる。」とのことから、すぐに GRIDY の導入を踏み切る。他社製品も検討していたのだが、コスト面及びセキュリティ面も踏まえて決定したようである。

個人情報を取り扱う関係上、P マーク取得はもちろん、セキュリティに関しては厳格なルールを定めているが、GRIDY を利用するにあたり「セキュリティリスクは感じていない。」とのことで、順調に利用が進んでいるようである。

IT リテラシーを乗り越える為には？

GRIDY を利用する際には、Firefox を利用するという事に決めています。

これは、PC に明るくないパートも多く勤務しているので、ブラウザ依存による運用の統一を考慮しています。もちろん「グループウェアとは？」から話すのですが、導入障壁を乗り越えるの一つとして、管理者である私から積極的に利用を促すことです。具体的には、とにかく体験させる、使わせるです。こちら側からメッセージをどんどん送る、ファイルをダウンロードさせるなど、体験させることによって「実感する→使ってみる→当たり前になる」の循環を生み出しています。



障害者支援を GRIDY CENTER で！

県内で障害者 IT 相談を行っているのですが、その問い合わせ管理として GRIDY CENTER を利用できるのではないかと考えています。

障害者からの IT に関する相談内容を記録すれば「いつ、だれが、だれと、どのような対応を行い、どのようなになったか」が全員で共有でき、誰でも適切な対応ができますね。

また、ユニバーサルデザインやアクセシビリティに力を入れてもらえれば、障害者でも GRIDY を手軽に使え共有ツールとしてもっと利用の幅が広がるかもしれないですね。

セキュリティを保ち情報共有をスムーズに

《共有サーバーを廃止、ただし情報共有はさらに効率良く》

スケジュールだけでなく、ファイルなども共有できるので、自宅や外出先でもファイルや報告書が確認でき非常に楽になりました。以前は、100% メールベース、またセキュリティの関係上、社内のみとしていました。もちろん、社内のメールは社外では閲覧不可ですので、出張があるとすぐにそれらを確認できず、いつも電話で指示を行っていました。GRIDY であれば、セキュリティを保ちつつ、いつでもどこでも簡単に情報共有可能なので、非常に楽になりました。もちろん、これに対してのセキュリティリスクは一切感じていません。また、以前は個人情報サーバーと共有サーバーがあったのですが、GRIDY 導入を機に共有サーバーを廃止しコスト削減にも繋がりました。

《メッセージの活用で安全・確実に情報共有》

GRIDY 利用前は、メールを送る際、CC に細かく宛先を指定して送っていました。

メッセージでは、メール同様、知らせたい人の名前を選択するだけで簡単に情報共有ができるだけでなく、[未読][既読]により誰が見ているか、見ていないかが分かり、確認連絡が不要になりました。

セキュリティに関する問題をクリアしているだけでなく、メールにはない良さがありますね。

Outline



社会福祉法人 あかね

設立年月日：平成 14 年 4 月 1 日に法人化。
組織としては、平成 8 年より運営。
所在地：千葉県船橋市本中山 3-21-5
電話：047-336-5112
代表者：理事長 安西信男
従業員数：40 名（障害者 25 名）
事業内容：障害福祉サービスの提供
URL：http://akane-net.or.jp